

実践英語

基礎教育センター・教授
福島 富士男

1. はじめに

2007年度前期実践英語の授業評価の報告を行うに当たって、まず今年度英語教育分科会が授業改善を目指して取り組んでいる点を紹介しておきたい。その上で、学生・教員による授業評価アンケートの集計結果と照らし合わせてみたいと思う。そうすることによって、今後の授業改善に活かせる視点が提示できればいいと考えている。

2. 2007年度前期実践英語授業の概要

ご承知のように、実践英語は日本人教員クラスとNSE教員クラスを毎週1コマずつ履修する選択必修授業である。入学時の英語テストによって学生を学力別にA、B、Cの3レベルに分け、各クラス25人以下に編成されている。統一テキストによる授業を行い、学期末に統一試験を課すことで、できるだけ客観的な成績評価を目指している。今年で3年目に入る英語教育プログラムではある。

1学年1600名に及ぶ学生それぞれの希望に応えるのは大変困難なことであるが、今年度はとりわけ教科書の選定に力を注いだ。かならず一定数見られるアンケートの回答に「教科書が易しすぎる」、「もっと教科書を難しくしてほしい」という要望に応えたものである。日本人教員クラス用には *Select Reading: Upper-Intermediate* (Oxford UP)、NSE教員用には首都大スタッフが協力して作成した *Berlitz English for Unicversity* を採用した。

そのほか、出欠席の扱いについては、シラバス等にも明記し、各クラスで教員に徹底してもらうよう呼びかけた。

ただ、今年度前期に関しては、「はしかによる休校」という思わぬ事態が発生し、これによって統一授業・統一テストの実施に関しては、教員間での調整作業にかなり大変だった。また、委託業務となっているNSE授業ではいささか長すぎる補講期間を設けざるを得なかった。

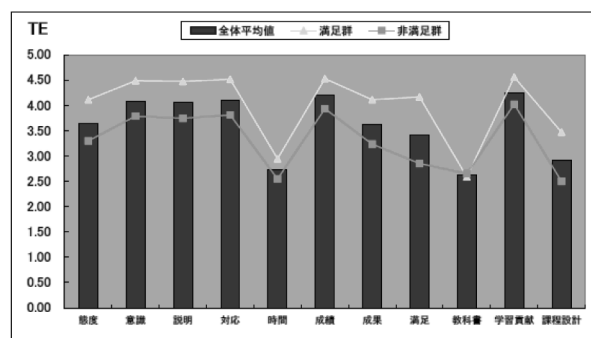
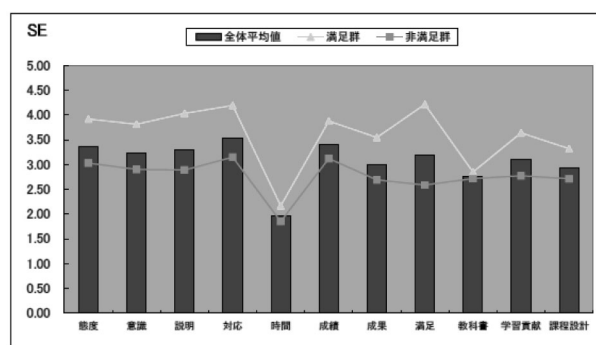
3. 前期授業評価について

日本人教員クラスの授業評価の対象は、実践英語 I a であり、NSE教員クラスについては、1・2年生全員にたいしてベルリッツが独自に行っている。いずれも、7月31日の統一試験の時間に行われた。以下二つのアンケートを紹介しながら、前期授業を振り返ってみたい。

4. 日本人教員クラス

上が学生、下が教員のアンケートの集計結果である。

2. 満足度別の平均値



教科書の項目で満足群を非満足群が拮抗しているののぞけば、その他の点では満足群が上回っている。教科書については学生の数値が2.77であるのに（この場合数値が高いほうが「教科書が易しかった」という評価である）、教員は2.63である。学生の回答数をみると、易しすぎた24名、易しかった139名、適切だった870名、難しかった362名、難しすぎた86名である。これは教科書の前半部分を終わった段階でのアンケート回答なので、後期はこの教科書を難しいと感じる学生数はさらに増えると思われる。来年度の教科書選定作業の参考とした。

これは今回の授業評価アンケートには含まれていないが、7月31日に実施した統一試験について簡単に触れておきたい。英語教育分科会による各教員へのアンケートでは、以下のような平均点が出た。70点満点で、平均50点（Aレベル53点、Bレベル47点、Cレベル46点）。Bレベル、Cレベルの平均点が接近しているのは、入学時の学力差を考慮に入れるとやや解せない部分である。

Aレベルの学生の平均点が低い点も気になる。とはいえ、全体の平均点が49点（70%獲得）となるように作成されたテストなので、その意味では成功したと言えるかもしれない。

5. NSE教員クラスについて

ベルリッツが行うアンケートは教師、講座、満足度、自己評価の4項目に分け、それぞれに3~4の質問をするものである。回答は、(1.強くそう思う、2.そう思う、3.そう思わない、4.強くそう思わない、5.不明)のいずれかを答えることになっている。以下の個々の質問とその回答率をあげてみる。

教師に関して

- Q1：熱意：38%、56%、5%、1%、0%
 Q2：指示・説明：26%、56%、15%、3%、0%
 Q3：質問への対応：29%、58%、12%、1%、0%
 Q4：授業の準備：35%、57%、6%、1%、0%

講座に関して

- Q5：時間内の学習量：19%、62%、16%、3%、0%
 Q6：授業進度：20%、61%、16%、3%、0%
 Q7：授業の雰囲気：15%、50%、29%、6%、0%
 Q8：授業の計画性：14%、57%、24%、5%、0%

満足度に関して

- Q9：英語理解：16%、48%、29%、7%、0%
 Q10：学習意欲：21%、54%、19%、6%、0%
 Q11：受講価値：8%、34%、40%、19%、0%

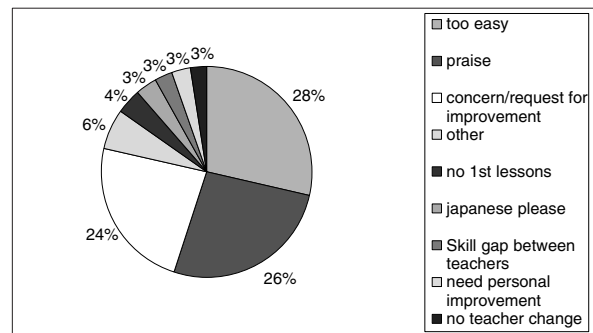
自己評価に関して

- Q12：予習・復習・課題：8%、34%、40%、19%、0%
 Q13：積極的に質問：9%、33%、47%、11%、0%
 Q14：出席状況(①100% ②80% ③60% ④50%以下)：
 42%、49%、9%、0%、0%

- Q15：テキスト：13%、58%、22%、7%、0%

そのなかで「Q15：テキスト」では、肯定的な答えが71%、否定的な答えが29%となっている。否定的な答えの多くは易しすぎるというものである。この点が、日本人教員クラスの回答で、教科書が難しいと感じている学生が多いのと対照的だと言える。

以下に、NSE授業に対する自由記述のコメントを集計した円グラフをあげてみる。



教科書・授業が易しすぎる28%、先生・授業がよかった26%、授業に関する改善要望24%となっている。ここでも教科書・授業が易しすぎるという不満が一番多い。

ただ、学生がテキストや授業内容を「易しい」と感じる場合に、注意しなければならない点がある。大学入学まで学生たちが接してきた英語は、語彙力増強、読解力養成のための英語であって、自分で使ってみる英語ではない。その結果、教科書に大きく依存する学習体質が形成されてきている。しかし、「読み、書き、聞き、話す」ことができるような総合的な英語力を養うのであれば、音声面の訓練に関しては比較的易しい語彙や文章を使って行うべきものである。NSE授業を新しい体験として積極的に評価する学生数が着実に増えている点も注目すべきだと思われる。

6. 課題

7月に開かれた学生大会で提起された英語教育に関する要望の一つに、英語授業の進度のバラツキを是正して欲しいという声があった。能力別クラス編成を基本としながら、統一テキスト、統一試験を実施している本学の英語教育では、進度調整は非常に重要な部分である。ところが、「はしかによる休校」によって、進度調整が大変に困難になった。この点は率直に認めなければならない。

最後に、使用教科書に関しては、日本人教員クラスではやや難易度の高い読解用テキストを使用し、NSE教員クラスでは、比較的易しいテキストを使いながら、スピーチ・ロールプレイ・ディベート等の実践演習を行うという、本学の英語教育の考え方を、学生諸君にもっと理解してもらう必要があると思う。